

していないからですが、採用するに当たっても平準化しながらというふうなお話でありましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほど来申し上げておりますが、このたびの定年延長については公務員制度の大きな転換だと思っております。特に役職定年制の導入、それと給与を70%の水準まで引き下げることなどについては、当該職員のモチベーションの低下だけでなく、組織全体のモチベーションを引き下げるといふ、そういったところもかなり懸念されるところであります。このたびいろいろ質問させていただきましたが、それらのほかにまだまだ課題などもあると思ひますけれども、そうした課題等にしっかりと対応していただき、市民福祉の向上に向けて職員の皆さんに頑張ってもらえるような、長井市が持続可能な都市として維持していけるようなことで、市長以下、副市長以下職員の皆さんに頑張っていたいただきたいということをお願い申し上げながら、私の一般質問を終わりたいと思ひます。ありがとうございました。

## 渡部秀樹議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位7番、議席番号8番、渡部秀樹議員。

(8番渡部秀樹議員登壇)

○8番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。緑風会の渡部秀樹です。よろしくお願ひいたします。

季節は冬を迎え、これから冷たい雨や雪がちらつく日も多くなってくると思ひます。師走を迎えるお忙しい中ではありますが、市民の皆様、そして議長はじめ市当局の皆様には風邪など引かぬよう、どうか無理せず、ご自愛いただきたいものであります。

さて、この秋、新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、様々なイベントが開催されました。私もスタッフとしてお手伝いさせていただきました10月22日土曜日のテントサウナイイベント「ととのうのその先へ」並びに10月26日の夕方から開催されました市民の実行委員会によるイベント「ながい酒場」では多くの市民の皆様にご参加いただき、また、多くの職員の皆様にもご参加いただき、大いににぎわい、楽しんでいただきました。実行委員長に成り代わり、感謝申し上げます。大変ありがとうございました。そして、次回もよろしくお願ひいたします。今後につながる大きな潮流を感じさせるよいイベントでありましたので、ご報告させていただきました。

それでは、通告に従って質問をさせていただきます。質問は大きく3項目ございますので、順次お答えいただきますようよろしくお願ひいたします。

1項目めは、都市環境の改善と都市機能の向上等について、市長にお聞きいたします。

第五次総合計画後期基本計画の将来像として「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」を掲げ、市政運営に取り組む本市のまちづくりについて確認と提案させていただきます。

最初に、都市環境の改善と都市機能の向上についてお聞きいたします。

1点目は、新市庁舎前の市内中心エリアにあり、度々問題となっている旧ハイマン電子高野町工場の解体・撤去について提案させていただきます。この質問は、令和4年3月定例会でも同様の質問をさせていただきましたが、年度をまたいでおり、状況等の変化があるかもしれません。また、内谷重治市長5期目の4年間、この件についてどのような方向性を検討しているのかお聞きしたいので、再度質問させていただきます。

以前も申しましたが、現在、本市は新市庁舎

付近や本町通りなどを中心にまちなかの整備を推進しておりますが、市庁舎から徒歩数分の場所に、かつては本市の雇用と経済に多大なる貢献をした旧ハイマン電子高野町工場が倒産した後、ほぼ手つかずのまま廃墟化しており、敷地内には窓ガラスが割れ、飛び散り、雑草に覆われ、野良猫やカラスのすみかになっております。快適で安全に暮らせる美しい都市環境の実現を目指す本市としては、改善できるものであれば改善すべき箇所であると思っております。また、廃墟を取り上げているホームページでも検索できることから、興味本位で訪れる人がおり、建物の中に侵入しようとした姿も確認され、何かのトラブルや犯罪の温床になる可能性も懸念されます。この件について、市長のお考えをお聞きいたします。

2点目は、新市庁舎付近を含むまちなかの利便性が享受できるエリアに民間と協力、提携、タイアップにより、介護福祉施設や商業施設など合築した住みやすく魅力的なタワーマンションの建築について提案させていただきます。こちらも令和4年3月定例会でも同様の提案をしましたが、再度提案をさせていただきます。

以前も申しましたが、現在、本市は新市庁舎付近や本町通りなどを中心にまちなかの整備を推進しており、中心市街地を中心に住みやすく魅力的なまちづくりの基盤づくりが進んでいると感じております。インターネットや情報誌などで全国の再開発をしている自治体や地方の人気都市などの情報を確認すると、都市部の利便性を享受しつつ、安全で静かな生活ができることを売りにしたタワーマンションが人気のようにあります。

タワーマンションは雪下ろしや除排雪の心配がなく、雪深い東北の地方都市とも相性がよく、もし本市のまちなかに建築できれば十分にまちなかの利便性を享受でき、山形鉄道や主要道によりアクセスのよく、介護福祉施設やコンビニ

エンスストアや商業施設が合築されれば、入居者だけではなく、地域住民にとっても魅力的な建物になると思います。しかし、リスク分散の考え方から、土地は行政で準備し、民間企業が建築するような官民連携事業が最適ではないかと思っております。この件について、市長のお考えをお聞かせください。

次に、頻発する豪雨災害への対策についてお聞きいたします。

1点目は、自主防災組織への支援や各種研修の指導についてお聞かせください。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1－(2)－①もご覧になりながらお聞きください。

本年8月3日に降り始めました線状降水帯による豪雨は、本市にもあまたの被害をもたらしました。しかし、市長をはじめ、職員の方々の迅速な対応と新市庁舎をはじめ、市内各所に設けられました避難所により大きな混乱もなく、災害をしのぐことができました。

多くの市民が、このたびの豪雨災害で実際に避難を経験したことにより、災害に対する備えが必要になることを実感したのではないかと思います。

これは各地で活躍している自主防災組織でも同様で、今後どのようなことを学び、どのように活動し、どのようなことを地域の方々に伝えていく必要があるのかについて、私自身、地区の自主防災組織の一員として改めて感じております。

そこで、各地区の自主防災組織に現在どのような支援ができ、災害に関した各種研修や指導などについて、今後どのような対応を検討しているのか、市長にお聞きしたいと思います。

2点目は、度重なる内水被害に対する備えについてお聞かせください。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1－(2)

ー②もご覧になりながらお聞きください。

本年8月の豪雨災害をはじめ、近年、豪雨災害が頻発しております。市内の被害状況は、林道から橋りょう、農地、事業所や家屋の浸水被害など広範囲に及んでおりますが、まちなかを流れ最上川に流入する河川の樋門が閉じたことにより起こる内水被害は豪雨のたびに起きており、その対策の必要性について幾度となく話し合い、議論を重ねてきたと思います。

私も樋門への排水ポンプの設置や移動式水中ポンプの配備、公園等の駐車場への地下貯留槽の設置、小河川と流雪溝をつなぐバイパス管と樋門などについて提案してきたことから、本市の今後の方向性が気にかかります。

そこで、度重なる内水被害に対する備えについて、今後どのような対応を検討しているのか、市長にお聞きいたします。

3点めは、浸水被害の出たタスへの止水板等の設置について提案いたします。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項1ー(2)ー③もご覧になりながらお聞きください。

本年8月の豪雨災害では、新たに公共施設として組み入れられました本市のランドマークタワーであるタスの玄関から大量の雨水等が流入し浸水被害が起きました。しかし、正面と北側の玄関に浸水被害防止用の止水板の設置や水害防止パネル（簡易設置型止水板・ボックスウォール）の備えがあれば被害を一定程度軽減できたかもしれません。この件について、市長のお考えをお聞きください。

2項目めは、観光振興事業関連について、市長にお聞きいたします。

第五次総合計画後期基本計画の観光振興分野で交流人口を増加させ、地域経済に貢献する観光と示されておりますが、この裾野の広い観光産業の推進について確認と提案をさせていただきます。

最初に、今後の交流観光についてお聞きいたします。

1点目は、株式会社モンベルとの連携事業についてお聞かせください。

観光産業は、コロナ禍により、近年苦しい状態であることは明白であります。そのコロナ禍の中で、本市は、道の駅川のみなと長井、地域連携DMOやまがたアルカディア観光局、旧長井学校第一校舎、ながい百秋湖の湖面利用、本市のランドマークタワーであるタスの取得など、積極的に観光行政に取り組み、一つ一つ丁寧に積み上げていると感じております。

そして、本市は、人気アウトドアメーカーである株式会社モンベルと包括連携協定を結んでおり、今後の連携事業が期待されています。

そこで、市長にお聞きいたします。株式会社モンベルとの連携事業について、計画していることがあればお聞かせください。

2点目は、まちなかと自然の調和による観光の推進についてお聞きしたいと思います。

この質問は、議長のお許しをいただき配付させていただきました資料の質問事項2ー(1)ー②もご覧になりながらお聞きください。

さきの質問のとおり、本市は一つ一つ丁寧に積み上げ、観光振興に取り組んでいると思います。私も一市民団体の代表として、地域連携DMOやまがたアルカディア観光局のお手伝いをさせていただいており、本年もSUPなど水辺のアクティビティーを中心としたアウトドア事業やテントサウナ事業などに関わらせていただいております。その際のお客様の満足そうな笑顔から、今後の躍進を確信しましたが、この美しい自然を生かした観光と本市の持ち味の一つであるまちなかを生かした観光の結びつきが少し弱く感じました。

そこで、今後のまちなかと自然の調和による観光の推進について、市長のお考えをお聞きいたします。



ちの例もあるようです。子供たちは、教師という身近な大人をとて信頼しており、信頼されている教師の一言は、学校生活だけではなく、その後の人生観にも大きな影響を与えてくれるほどであります。どのように指導し、導いているのでしょうか。この件について、教育長にお聞きいたします。

2点目は、新型コロナウイルス感染症による出席停止期間中の授業のフォローをどのように行っているのでしょうか。また、課題や問題点があればお聞かせください。

文部科学省のホームページでも、出席停止について、他の児童生徒の安全や教育を受ける権利を保障すると同時に、出席停止措置期間中の当該児童生徒への指導の充実を図ることも重要などの記載があり、出席停止期間中の子供たちのフォローについて注意喚起しておりますが、学習面でのフォローをどのように行っているのでしょうか。この件について、教育長にお聞きいたします。

3点目は、長期化するコロナ禍への対応による、職員の心身への負担増について、どのように把握し、どのようにケアをしているのでしょうか。また、課題や問題点があればお聞かせください。

コロナ禍の長期化は様々な社会問題を引き起こしており、社会生活を営む上でも様々な負担を余儀なくされております。心と体の負担も例外ではありません。これは学校生活でも同様であり、校内における子供たちの様々な負担を取り除くために教職員は常に奔走しており、それが徐々に教職員の心と体に大きな負担をかけているのは事実であると思います。様々な報道でも、保育士や幼稚園教諭、小・中学校教諭、高等学校教諭への急激な負担増に対し警鐘が鳴らされており、本市でも同様ではないかと思えます。疲弊した心身を早めに小まめなケアをしなければ、優秀な教職員を失いかねません。この

件について、教育長にお聞きいたします。

4点目は、長期化するコロナ禍により変更を余儀なくされている小・中学校の行事の決定基準や本年度の動向についてお聞きいたします。また、この件に関し、課題や問題点があればお聞かせください。

長期化するコロナ禍により、各小・中学校では、これまで当たり前できていた様々な行事を中止したり、延期したり、手法や趣向を変えたりしながら学校運営していると思います。一つ一つの行事をどのような基準で実施、中止、延期などの判断をしているのでしょうか。そして、本年度の後半は、どのように学校行事の実施について検討しているのでしょうか。教育長にお聞きいたします。

壇上からの質問は以上になります。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部秀樹議員から、大きく3点ほどご質問、提言をいただきまして、私のほうからは、大きな2項目、9点についてご質問、ご提案をいただきましたので、順次お答えを申し上げます。

まず最初に、都市環境改善と都市機能の向上等についてということで、具体的には、議員からは、まず1点目といたしまして、都市環境改善と都市機能向上の中で、特に旧ハイマン電子高野町工場の解体撤去について、その後どのように進展しているかというようなお尋ねでございます。

旧ハイマン電子高野町工場につきましては、主体となる工場部分が昭和36年に建築された鉄筋コンクリート2階建ての建物であり、その後、倉庫、物置、機械室等が増築されております。敷地面積は1,793平米、建物の床面積は2,189平米となっております。

権利関係に係る現在の状況でございますけれども、土地については3名の所有者がおり、全12室ありますが、所有者の死亡、法定相続人の

相続放棄により、相続人不在住となっております。建物についても、法人が倒産し実態がなく、土地建物ともに管理者不在となっている状況でございますが、登記簿上は債権者が多数あるという、非常に困難な事案だと、これは以前にも申し上げたとおりでございます。

長井市では、これまで煙突、ダクトの解体工事や雪止めの設置工事、敷地内の樹木伐採や住宅に隣接する倉庫の雪下ろし等の安全確保のための緊急的な応急措置を講じてきております。やはり地元の高野町の地区長様はじめ、周りの住民の皆様からの度重なる要望などがございまして、できる限り市のほうの判断で、所有者がいませんので、処置を取らせていただいたところでございます。

本来は所有者が自らの責任において適切に管理を行うことが大原則である空き家において、行政がどこまで支援していくべきなのかということになりますが、まずは、市民生活の安全・安心を確保していくことが最優先の課題だと現在のところは考えております。

しかしながら、将来的には倒壊の危険性が高まってくることが想定され、いつまでも放置しておくことはできない問題であります。市による除却も検討していかなければならない現状は令和4年3月議会で答弁したとおりでございます。

建物を除却する際は、国の空き家対策総合支援事業を活用することができますが、これも億単位、何千万じゃなくて億単位と見込まれる解体費用の5分の3を市が負担しなければならぬと。これは所有者不在住であるため、あるいはまた、この建物自体の除却は補助対象となるものの、建物内部にある機械等の撤去費用は補助の対象外であるということなど、財政負担の課題もございます。

今後は建物の除却だけに固執するのではなく、

権利関係を解決した上で跡地利活用の方向性を考えながら、次期都市構造再編集中支援事業、現在行っている公共複合施設あるいは市役所周辺の道路の整備、また、公立長井病院の再築ですね、そういったところに使っている事業でございますけれども、この緊急避難施設としての都市防災総合支援事業、ご質問にもあります民間活力によるサービス付高齢者住宅等の市街地再開発事業での取組等、除去と一体となった土地利用の方針を定めていかなければならないと考えております。

したがって、壊すのだけではどうしようもないわけですね。しかも所有者が不在になっているわけですから、長井市のものにならないわけですよ。何億もお金をかけて。ただお金だけじゃなくて相当な手間暇がかかります。

それから、聞いていらっしゃると思うのですが、一応ないとは言われておりますが、以前はメッキの業務なども行っていた工場でございますので、何があるか分からないと。土壤の汚染なども危険性としてはあると。実は大変な状況なのですね。

したがって、単独の事業でやってしまっただけでは、その後の対応が今度は市に全て責任が生じますので、やっぱりそこは慎重にせざるを得ないのかなと考えているところでございます。

次に、2点目の新市庁舎付近を含むまちなかの利便性を享受できるエリアに民間企業との協力、提携により、介護福祉施設や商業施設などを合築した住みやすく魅力的なタワーマンションを建築することについてというご提言ということになりますでしょうか。お答えいたします。

令和4年3月議会の答弁とも重複いたしますが、長井市は、立地適正化計画の中で都市機能誘導区域を設定し、そのエリアには新庁舎、長井駅をはじめ、公立置賜長井病院や遊びと学びの交流施設「くるんと」が含まれております。同時に、都市計画道路桐町成田線が令和5年度

に竣工し、今年1月には都市計画道路長井駅海田線も事業採択となり、行政主体の中心市街地の骨格となる道路整備、公共施設の改築や新築の整備を着々と進めてまいりました。

今後は、これらの整備を生かす民間活力に大いに期待しているところでございます。民間主導で、そこに行政が協力していくスキームをどう構築していくかが今後の課題と考えます。

現在、山形市の中心市街地では、サービス付高齢者住宅やシニア向け分譲マンションの建設ラッシュで一戸建てからの住み替えが多いようで、冬期間の除雪の心配もなく、しかも公的機関にも近く、利便性や安全性が購入者のニーズと合致していると思われ、中心市街地の活性化のみならず、居住人口の拡大につながるものと期待されます。これらは国土交通省の市街地再開発事業で進められておりまして、民間主導でありながら、国、県、市が一定の支援をする仕組みになっております。現在これは酒田市のほうでも進められております。

この事業は、居住施設に限らず、特に本市の中心市街地に不足している商業施設ですね、洋服店や飲食店を含めたショッピングモールやそれと一体となった健康増進施設であるジム、フィットネス、あるいは温泉施設などを面的に整備することで、さらなるにぎわいや暮らしやすさ、住みやすさを実感できるものであり、新庁舎や建設中の「くるんと」とも相乗効果が期待でき、それこそが中心市街地の活性化につながるものと考えております。

議員ご提案のタワーマンションも同様の考え方であると思われまして、景観や町並みに配慮しながら、民間活力の導入を積極的に誘導、検討していきたいと考えております。

やはり問題は、こういう国の補助事業をいかに活用するかということですが、これも再開発ですから行政では経験のない地上げから含めて、その企画、構想ですね、全体の構想。それ

から、当然建築から中に入る商業施設等々、もうこれは大変な事業でございまして、10年ぐらいの計画で行うべきものと、構想、土地の取りまとめから権利関係、それから建設、分譲等、あとは入居、そういうことを考えますと、もうそんな簡単にできるものではなくて、到底地元資本ではなかなか難しいものだと思います。

夢としては、渡部議員おっしゃるのは、私もこれを何とかしていかないと、長井市が、小さいまちでありながらも自然と空気や水がおいしくて、非常に住みやすい居心地のいいまち、なおかつ、次の世代の人たちも望むような都市機能が一定程度あると。これは、何も山形市、仙台市とかね、そこに負けないようにするなんてことは不可能ですから、長井市に合ったような、そういう都市機能をどうつくるかということが求められていると思いますので、これは一体となって、やはり民間の皆様とつくっていくものと考えているところでございます。

続きまして、3点目です。頻発する豪雨災害の対策についてということで、議員のほうからは、自主防災組織への支援や各種研修の指導などについてということで、自主防災組織への支援や各種研修の指導についてお答えいたします。

自主防災組織の支援として、長井市自主防災組織活動費補助金及び長井市自主防災組織の防災資機材等整備事業費補助金を例年予算化して、自主防災活動のための機材整備等に活用いただいております。

自主防災組織活動費補助金は令和4年度予算額で32万円、自主防災組織の防災資機材等整備事業費補助金、これは同じく83万円、こういった予算化していますが、各種研修につきましては、昨年度から今年度にかけて、災害時における市民一人一人の防災行動計画であるマイ・タイムラインの作成講習会開催の要望が数多く寄せられており、山形河川国道事務所から講師を派遣いただきまして、各地区の公民館等

に訪問の上、講習会を実施しております。令和3年度で館町南・北の2か所、今年度は幸町、森、十日町、河井、館野等々がございます。

長井市自主防災組織連絡協議会の活動においても研修の機会を設けておりまして、令和4年度は山形河川国道事務所が事務局を務める最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会が主催しまして、10月9日にタスパークホテルで開催した、マイ・タイムライン作成講習会に約70名の自主防災関係者に参加いただきました。

講習会では、近年の気象情報について講演をお聞きしたほか、マイ・タイムラインの作成演習とスマートフォンを使用して自ら情報を取得するための演習を体験していただきました。

最後に、今後、自主防災組織の皆様にご期待する点として2つの点を上げたいと思います。

1点目は、避難所運営についてでございます。8月3日豪雨災害においては、経験がないほどの大雨と河川の増水により、緊急安全確保を発令しまして、多くの方が避難されました。今後はこういった災害が頻発すると考えられており、市職員のみでは避難所運営が困難となります。その際、自主防災組織の皆様のご支援が何よりの力になると考えております。

今年度の総合防災訓練では、そういった視点を踏まえまして、自主防災組織、各地区、施設管理者、市避難所担当職員が顔を合わせ、避難所運営について意見交換を行っております。平常時から安否確認の方法と各組織が避難所でどういったことができるかについてご検討いただきたいと思っております。

2点目は、避難行動要支援者の個別避難計画策定支援についてでございます。

市では、法律により、避難行動要支援者名簿の作成が義務づけられておりまして、市が定めた案件に当てはまる方を名簿化しております。名簿記載者のうち、災害が起こっていない平常時の情報提供に同意された方の情報については、

各地区自主防災組織に情報提供をしまして、日頃の防災活動に活用していただいております。

今後は、危険な地域にお住まいの方や重い障がいがある方等、優先度が高い方の個別避難計画を策定することが求められております。市担当においても、担当者への呼びかけを継続してまいります。各地区及び自主防災組織の皆様にも引き続きご協力いただきたいと思います。

続きまして、4点目が、頻発する内水被害に対する備えについてということでございますが、昨日、内谷邦彦議員からは、地震の際の対応ということもございましたけれども、それと同じく内水被害についても、これは非常に今、私どもで考えられる最大の課題なわけですけれども、これは議論として気をつけなきゃいけないのは、木を見て森を見てないということなのですね。ですから、そこに住んでいらっしゃる方は、自分の地域で水が出たときに、どうしてくれるのだと、何とかしろというわけですけれども、これ基本どうしようもないのですよね。それは時間をかけて相対的に整備していかなきゃいけない。

どこから水が来るかっていったら、山から来るわけですよ。それが普通は野川であったり、白川であったり、最上川に流れるわけですけども、ただ、長井のまちは、川が集まるまちということですから、水が集まるように、そういう地形なのですよね。その地形をいかにして集まらないように分散させるかといったことは、これはその地域、うちの地域に出るようなことを何とか防げと、あるいは排水ポンプを設置して、それで済むかということなのですよ。

たまたま8月の豪雨は、朝日山系は少なかったのですよね、飯豊山系です。これに朝日山系も来たら、もう万歳ですよ。そういうことを考えながら、実は内水被害に対する備えをしていかなきゃいけないと。

いや、実は担当が作ったものいっぱいあるのですが、これ読むと時間ないんですよ。ですか

ら、これ以外にあと5点ありますので、ちょっと答えられないので、そのところは、ちょっと時間ないかもしれませんが、まずはできるだけ早く進めます。あと、教育長の答弁がありますしね。

昨年度より国土強靱化5か年計画の施策である緊急自然災害防止対策事業債や緊急浚渫推進事業債、充当率100%、交付税率70%という、こういう起債が認められましたので、私ども市町村も、あるいは県もかなりいろんなことをできるようになりました。計画的に市内河川のしゅんせつとか、あるいは長年問題になっていました中央地区では、高野町の榎木川についてもようやく地権者からご同意を得て、その部分の床下、床上浸水を防ぐための工事に着手します。でも、さっき言いましたように、これは一時的なものであって、今までには考えられなかった雨が降るわけですから、それをやったからってまた出てくるということは確実です。ただし、こういう1か所1か所の対応ももちろんしなきゃいけません。

国においては、気候変動の影響、あるいは社会状況の変化などを踏まえて、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、これが流域治水への転換が図られています。

したがって、我々市内の内水被害についても、その内水だけで見ても駄目なのですね。一番手っ取り早く言えば、西山とかですね、平野地区のほうはダムがあるものですから、またちょっと違いますけれども、あそこの山に降った雨が全て県の3つぐらいの河川に集中してくるわけですから、しかも短期間に。ですから、砂防堰堤でそれをまず食い止めるということがまず第一なのですね。

そのいい例が、平成25年、平成26年にあった金井神の慈光園の床上浸水ですね、膝まで上がったと。あれは結局、砂防堰堤を、砂防ダムを造ってもらったら、あと、いろいろやりました

けど、ぴたっと止まったわけです。しょせんそこに造ったときも、1メートル50センチとか2メートルぐらい土盛りすればまた違ったのかもできません。これは結果論ですけど。

あと、タスにも言っておられますように止水板、これ長井病院のほうは止水板をしっかりしているわけで、そういったところを考えなきゃいけないと思います。これはまたちょっと時間をいただきながら議論をしていきたいなと思います。

続きまして、5点目の浸水被害が出たタスへの止水板設置については、これは議員ご指摘のとおりでございまして、この間の取締役会で止水板の設置について、それなりの経費がかかりますけれども、取締役会で一致しましたので決定しましたので、これは冬じゃなくて、春になったらですけども、冬の期間は洪水は基本出ないと。何があるか分からないのですけども、川が雪で随分水が少なくなりますので、ですから、来年の春以降に設置する、使うということになると思います。そんなことで準備しているところでございます、これは議員ご指摘のとおりでございます。

あと、ここの項目の最後ですが、今後の観光交流についてということで、交流観光の拠点であるタスの納入業者についてということなのですが、タスパークホテルは、できる限り市内の業者を優先したいと思っており、いろいろな努力をしております。市内の業者で取引が多いのは、食材関係となり、宴会のメインとなる肉や魚はもちろんのこと、地元野菜を使いたいという熱い思いがありまして、料理長自らが菜なポートで旬の野菜の購入をしておりますし、昨年、レインボープランの生産者からキウイを購入し、シャロアで提供するなど、地元密着をテーマに様々実施しております。全ての業種を含めて、今現在の取引先100社のうち、地元業者が59社と全体の59%と半分以上を占めております。

しかしながら、長井市及び置賜エリアにはない業種も数多くあり、特に食品以外の宿泊用のアメニティ、厨房の機材関係、あるいは施設の設置関連、フィットネス機材機器などは市外業者を頼らざるを得なくなっております。各種イベントのチラシ印刷や看板などの消耗品に係るようなものにつきましては、85%が市内業者となっており、分野によって割合が変わってきます。タスパークホテルが今求められていることは、安定した黒字体質の会社にすることであり、そのためには取引先同士の競争を取り入れることが必要と考えます。

以前は、地元の会社から言われる金額を高いか安いかの検証なしに購入しておったのですが、昨年から物品を購入する際には、原則2者以上、通常は3者以上ですが、山形県は会社が少ないため、現在は2者以上という縛りをつけ、相見積り取得を原則としております。今後も経営の黒字化を目指すための相見積りによる経費節減に努めつつ、市内業者の仕入れを基本とした仕入れの検討を随時行ってまいりたいと思っております。

続きまして、7点目でございますけれども、観光振興事業関連についてということで、議員のほうからは、今後の交流観光について、株式会社モンベルとの連携事業について、どんな状況かということでございます。

株式会社モンベル様とは、令和3年10月に包括連携協定を締結いたしました。同月、やまがたアルカディア観光局の連携2市3町のエリアが、モンベルフレンドエリアに登録なりまして、エリア名はモンベルフレンドエリア飯豊・置賜とされたところでございます。

これによりまして、モンベルの機関誌へのエリア紹介が行われ、全国102万人会員の元に届いているということでございます。また、株式会社モンベル様には、令和3年12月に祝瓶山の登山道上にある角檜橋吊橋の修繕費用として、

企業版ふるさと納税のご寄附もいただきました。角檜橋は、令和3年度中に修繕が完了しまして、雪解けを待って、今年6月に踏み板を設置しまして、2年ぶりに長井側から祝瓶に登ることができるようになりました。この事業を記念し、7月には、祝瓶山角檜橋修繕記念登山を開催しまして、大勢の登山者に参加いただいております。

8月にモンベル本社に寄附のお礼の訪問した際に、お土産として持参したモンベルのロゴ入りけん玉を会長、社長に贈呈させていただいたところ、とても気に入っていただきまして、早速この11月末からモンベル各店舗にて、長井産けん玉を使用したモンベルオリジナルけん玉を販売していただいているところでございます。

今後の連携としては、長井市で、昨日も赤間参事のほうからありましたけれども、SEA TO SUMMITという環境スポーツイベントの開催ができないか検討しておりまして、豊かな自然を有し、ウォーターアクティビティー、山岳観光を実施している本市ならではの環境を生かしたものとしております。

今年は宮城県加美町で開催された同大会に職員が視察に行っておりますが、150人余りの皆さんが地域内で宿泊して、自転車、バイク等々で大変盛り上がったということ聞いておりまして、これをぜひ長井市でと考えています。

2番目が、まちなかと自然の調和による観光の推進についてということで、議員からは、長井市の美しい自然を生かした観光とまちなかの景観を生かしたまちなか観光との結びつき、連携が不足しているのではないかとご指摘をいただきました。

確かに議員は、こういった観光等々にも非常に識見をお持ちですので、いろいろご協力いただいておりますが、現在の観光案内は、ボランティアガイドのながい黒獅子の里案内人によりまして、長井ダムながい百秋湖の遊覧船や水陸

両用バスのガイドや重要文化的景観の宮・小出の町並みや歴史の建物を巡るまち歩き事業を行っております。

まち歩き事業では、コロナ禍前の令和元年度は年間3,391名と、コロナ禍で令和3年度は648名と激減してしまいましたけれども、こういったまち歩き事業は、今後もお客様の要望に応じて、コースや立ち寄る場所を変えて案内するためピーターも多くて、長井のファンが増えているということで今後も継続していくという考えであります。

まちと自然環境を同時に案内できるのは、今のところ水陸両用バスの観光案内となっておりますが、長井市では、まちなかと長井ダムや古代の丘との距離が非常に近い位置にあります。また、最上川がまちなかのすぐ脇を流れているという非常によい立地条件になっておりますので、これらをうまく活用していきたいと思っております。

さらには、国重要文化的景観の平野地区の山居集落の追加選定に向けて、今、ワークショップを開催しておりますが、山居集落の景観や風景、あるいは生活文化とまちなかの生活文化をつなぐフットパスコース等々をこれからも生かして、やまがたアルカディア観光局で実施する、長井ダムながい百秋湖のアクティビティーや山岳のトレッキング、古代の丘資料館における勾玉づくり等の体験観光を軸に、まちなかのつながりを持てるように商品開発を進めていきたいと思っております。

続きまして、最後に、サイクリングコースの整備についてですが、議員おっしゃるとおりで、これはぜひ私どももサイクリング道路を、専門のものを造るというのは、今の段階ではそう簡単にはいきませんが、しかし、交通量が少なく安全に走行できる場所はたくさんありますし、いいコースも取れると思っておりますので、ぜひ隣の飯豊町、白鷹町と連携しながら、サイク

リングとしていいコースが取れるかと思っておりますので、そういったところについてのご指導もいただきたいと思いますと思っております。

なお、モンベルなどが協賛企業となっておりますが、ジャパンエコトラックというのがありますけれども、トレッキング、カヌー、自転車といった、人力による移動手段で新しい旅のスタイルのような、このエコトラックというのをやっております。飯豊町がガイドブックに載っておりますが、長井市のルートも開発したいということで相談しているところでございます。このようなことで、サイクリングルートも一緒にできればと考えているところでございます。私のほうからは以上でございます。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、コロナ禍における学校の様子について4点ご質問いただきましたので、随時簡潔にお答えさせていただきます。

まず、1点目であります。議員がおっしゃるとおりです。学校の先生は一番子供のことを導き、安心させる存在だと思います。子供の心に先生が寄り添って、その心を受け止め、先生と子供が同じ方向を見詰め、先に進んでいく、その姿勢を大事にしていると捉えております。

なお、いじめの状況についてでありますけれども、直接的なものでいじめの認知はしておりませんが、ご存じのようにマスクをしている生活です。人との関わりも制限されて、表情の見えない中で友人関係を築いていくということから様々なトラブルが起こっているのは事実です。学校のほうでも、まずはしてはいけないとかということではなくて、その心の不安に寄り添いながら話を聞き、受け止め、解決というか、人間関係の解決に向けて取り組んでいるなど思っています。

不登校の状況であります。出席停止について、これは当然濃厚接触者になったり、それから、不安があった場合でも全て休むときは出席

停止になっておりますけれども、9月現在で小学校で1,375件、それから、中学校では625件あります。10月からの全数検査がなくなっておりますので、ここでちょっと実数はありませんけれども、どれだけ多くの子が今その中であるかというのはお分かりいただけると思います。

これらのことを受け止めながら、学校では子供たちも本当に優しく受け入れてくれているなと思います。もし何かこんなトラブルあったよということがあれば、ぜひ議員のほうからもお知らせいただきたいなと思っております。

さらに、このときの授業ですけれども、これについては、昨日の勝見議員の質問にもお答えしておりますが、様々です。補修プリントを自宅に届けたり、それから、タブレットを使ったリモートによる授業参加は非常に効果があります。無理のないように、でも、心のつながりをなくさないようにしながら、一人一人に合わせた形でフォローしていると捉えているところであります。

それから、教員のケアですけれども、これも結構深刻です。非常に新型コロナウイルス感染症が常態化しておりますので、特に8月、9月、10月というのは行事がたくさんあります。このときに家族の感染が起因して休まなければいけない事案もあります。その点でも非常に難しいですけれども、やはりウィズコロナですから、これについても、学校でもぴりぴりせずに構えて対応していただいていると思っておりますが、昨日もお答えしましたけれども、指導主事がそこ抜けたところを学校さ行って指導するなんていう、子供たちの相手をするという事案もあります。大変ありがたいことなのですけれども、今、学校運営協議会のコミュニティー・スクールの会の在り方を変えようと思っております。課題を共有して何かみんなでできることはないかということをしているのですけれども、変化があります。

地域の方から、学校いろいろ大変だったら、地域でできるのがあるから、それはいつでも申し出てくれと言っているところがあります。そういったところも力にしていることは、これは新型コロナウイルス感染症だけでなく、大事ななと思っております。

最後、行事についてですが、これは行事の価値というのは、学校、子供、保護者の皆さん、地域、みんな捉えていると思っております。学校現場では、安心・安全を最優先にしながらも、子供にとって一生の宝となる経験ですので、このために校長としては適切な判断の下、学校行事、教育活動を実施しております。実はこれ、校長先生にとって非常に勇気が要ることなのですけれども、適切な判断していただいているなと思っております。

中学校では、9月に感染対策を行いながら、職場体験を実施しました。これ、議会でお認めいただいた抗原キット検査で全員検査をして、大丈夫だよということで訪問しながら、職場の安心感も得ているところであります。

それから、マスクをしていただけれども合唱コンクールも実施しております。それから、ザンジバルの野球チームが訪れましたが、小・中学校と交流しましたけれども、これも声を掛け合ったり、一緒に応援したり、一緒に踊ったりとか、いい姿をこれで見せてくれているなと思っております。

平野小学校の創立130周年記念ですが、マスクをしながら校歌を全校生、地域のお客さんと歌い、それから、平山獅子踊り、これも例年の姿でご披露したところです。

伊佐沢小学校では、今回、地区と学校の合同運動会だったので、これは実施しました。こんなところもありますし、長井小学校でも学習発表会を参観者は限定しながらですけれども、実施しているところです。

いろいろ感染拡大心配されますけれども、状況を見据えながら、どの学校でも子供の願い、学

校の願い、保護者や地域の願いを受け止めながら、価値ある教育活動を実施しておりますし、また、このようなことでさらに進めていきたいと思っているところです。私からは以上でございます。

○浅野敏明議長 8番、渡部秀樹議員。

○8番 渡部秀樹議員 市長には、9項目も答弁いただき、大変恐縮です。教育長からも様々現状がたっぷり聞けたかと思えます。

まずは、教育長なんですけども、行事等の、教育長もありましたけど、子供たちの思い出、すごく大事なことで、同年代ですか、同い年のお友達と、何したっけ、かにしたっけって、先生にこんなこと言われたっけって、すごくその行事のたび、私も記憶に残ったのがいまだに忘れられないことがいっぱいあります。なので、もう最初からいじめの問題から不登校もそうですけど、全て寄り添う形で対応なさっているなというのは感じております。教育長のその思いを各校長を通し、各教職員に伝わるような体制を大事にしてほしいなと思えます。

私は特に不平不満があってこれを上げたわけではなく、今回ちょっといじめとか、そういう不登校の問題が委員会のほうでもあったので、これはもう一回聞こうかなという形で、また、教育長のほうがこのような体制であれば、私はこのまま行ってもらいたい。そして、一番大事なのは、下まで伝わるようにしてほしいなと思えます。

市長になんですけど、またこれは今回もお願いみたいな感じなんですけど、様々観光事業のほうも取り組んでいて、私も手伝っております。まだまだ切り口いっぱいありますし、どうしても今回感じたのは、私もどうしてもアウトドア系中心でお手伝いしているものですから、ただ、私、まちなか観光のガイドもしていた時代がありますので、そのときにどっちなにお客様となるのだろうかと思うんですよ。

登山に行ってもちよっとした調整の時間、買物に行ったり、余暇の時間、上がってきて温泉入ったりするじゃないですか。そのときに、帰りがてら、例えばどっか寄ろうかというところに様々市内いいところがありますので、今回写真も少し載せているのですが、こういった形でちょっと立ち寄りで丸大扇屋に寄ってみたり、歩くの好きな方々が来てれば、みずはの小道歩いてみたり、そういった紹介が、文化系の人には少し郊外の風景、そして、郊外の風景、アウトドアを楽しみに来た方には、もう一個だけこちら辺、文化系のところに寄ってほしいなみたいなアプローチを私自身が抜けていましたし、それができれば、もうちょっと幅の広い観光地としての体をなすのではないのかなと、私は、今回自分に対して特に感じました。お伝えしながら、一番大事なことを答え出してあげられなかったかなということでありましたので、これは私も取り組んでいきますので、市長もサポートをお願いしたいなと思えます。

あと、サイクリングコースなんですけども、やはりやったほうがいいなと私も思っておりますので、私もいろいろ手伝いますので、よろしく願いいたします。私からは以上になります。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩といたします。再開は午後1時といたします。

午前11時57分 休憩

午後 1時00分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、今泉春江議員から資料の配付について申出があり、会議規則第150条の規定により、

許可いたしましたので、ご報告いたします。

## 小関秀一議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位8番、議席番号13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 一般質問させていただきます。

最初に、議長の許可を得て配付させていただきました資料の中で、置賜地区農地賃貸借情報、「令和3年未公開」と誤解をされて読まれた先輩がおられましたので、ご指摘を受けました。

「令和3年度末」であります。期限については、令和4年の3月頃各市町村で出されている情報で誤解のないように、私の記載のミスでありましたので、よろしくをお願いします。

最初に、項目に沿って質問します。

最近非常に驚いたことがあります。新聞発表で、まだ年末には、あと1か月ほどあるわけですが、今年のお子さんが生まれた数、出生数については80万人を割る見込みだという情報が発表されました。これは非常に驚異的なことだなどと思います。日本の歴史から見てずっと、いろんな経済の流れがあったり、教育の在り方、出生を考えれば衛生面、あと、高齢者を見れば、介護や福祉、医療等の手だてで日本が進んできた歴史の中で出生率が、例えば100年で100万人ずつというざっくりした計算をしてこられた時代と、100万人から80万人という、20%、日本の平均的に人口が減っているということを考えれば、これからの経済や社会の在り方もいろんな面で問われていく時代に入ったということでもあります。

さらには、ウクライナ侵攻による世界的な食料や石油等の資源の枯渇、輸出入の変化による日常生活に及ぼしている影響は非常に大きくな

りつつありますし、これからも大きくなるんだべなと心配しております。

最初に質問に上げました、コロナ禍における本市の経済状況について大きく2点上げさせていただきましたが、特にコロナ禍に入って2年半経過して、先ほど申し上げました世界的な経済状況等も含めて考えますと、消費生活者、市民の生活は非常に大きな影響を受けているという現状であります。

物価指数等をお聞きしますと、総務省の発表であります。去年の同月比は3.7%の上昇と消費者物価指数の発表がありますけれども、実態としては、日常消費というか、買物をしたり、いろんな生産資材を購入する状況としては、まだまだ上がっているような印象を受けるわけです。

こうした状況を長井市としてはどう把握をして、行政としての対応はどう講じられてきたのか、また、できればですが、今後の対策などもありましたらば、産業参事に伺います。

○浅野敏明議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 産業各分野のコロナ禍での景気をどう把握しているかと、これまでどういった対策を講じてきたか、今後の予定ということでご質問いただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で景気が低迷する中、今年は、加えまして、ウクライナ紛争に始まる原油高、輸入資材の高騰でガソリンはもとより、酪農の飼料、それから肥料、食品など、ほとんど全ての物価が上がっているという現象は、これは長井市だけではなくて、全国的なものでございますけれども、市内の各業種におきましても影響が出ていると認識しております。

どのようにそういった状況を把握しているかということをお申し上げますと、各店舗や商店街、事業所、商工会議所、JAなどの関係する方々から情報、意見を伺うとともに、報道等の情報